足利・九条の会

あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお願い致します。

2024. 1.13　39 号
代表：采澤 tel:21-5797
担当：岩田 tel:43-0144

このままでは武器（人の命を奪う道具）輸出をする国になってしまう

安倍政権時代の閣議決定より武器製造、武器（兵器）の輸出、海外企業との共同開発を基本的に禁じていた「武器輸出三原則」を「防衛装備移転三原則」という耳障りの良いものにされ「武器輸出三原則」は骨抜きにされてしまった。

直接的にも間接的にも戦争経験者が激減してしまったからだろうか。

私は叔父二人をニューギニアで奪われ、その遺影を見ながら育ってきた。

日本人が武器輸出を営利目的で行う国にしたくない。

このような時代だからこそ戦争の惨劇を反省し、政府の暴走を食い止めるための憲法九を守り続けたい。

多くの国が武器製造では無く平和のため、自然環境回復のために予算を割くようになればより多くの人々が安心、安全に暮らせるようになるのではないだろうか。

軍事力の増大を考えるよりも、いかにして近隣諸国と友好関係を保てるかに力を注いでほしい。

現憲法は天皇、国務大臣、国会議員、裁判官、その他全ての公務員に憲法尊重し擁護する義務が課せられている。

政府や国会議員が憲法改正を口にすることは、紛れも無い憲法違反であると思う。

いつまでも平和な世の中を願い続ける日本であってほしい。

足利・九条の会代表　采澤良浩

梅沢

平和共存の道筋

１９４５年は世界平和にとって、記憶に残る年であった。ナチスドイツが破れ共に戦った米英連合軍とソ連軍が４月にドイツのエルベ川で出合い、国際平和への希求を誓い合い。日本では８月に原子爆弾が投下され、ポツダム宣言の受諾、天皇の敗戦宣言により太平洋戦争は終わり第二次世界大戦が終結した。そして国際連合憲章が採択され国際連合が発足した。敗戦国日本を領事したマッカーサー元帥のもと、GHQ が憲法の自由主義化と人権擁護の改革を要求し、憲法問題調査会が設けられた。翌４６年１月２４日幣原喜重郎首相は憲法九条の戦争の放棄をマッカーサー司令部に提言し同意を得た。（マッカーサー回想記）１１月３日日本国憲法が発布された。悲惨な戦争体験の反省より生れた世界に誇れる平和憲法である。しかし世界主要国の為政者は覇者の側に立つ論理の中に平和を位置付ける。核兵器の開発は進み核保有国は広がっている。
更に戦争が繰り返し起っている。

ニューヨーク国連本部の前庭に鍛冶職人の像が建ち台座には旧約聖書の一節が刻まれている。「ヤハウェ（エホバ）は国々の間を審き多くの民の仲裁に立たれる。かくて彼らはその剣を鋤きに変え、その槍を鎌に変える。国は国に向って剣を上げず。戦争のことを再び学ばない。」

―岩波聖書―

剣と槍は戦争の道具であり、すきとかまは食料を生産する道具である。

地球の温暖化が進む今日、すでに河川の水が干上がり耕作不能となった田畑が世界各地で広がってる。地球が壊れ始まっている。日本は憲法改正を叫ぶが、もう一度平和憲法の理念に学び地球の平和共存の道筋を研鑽し、具現するために汗する国で有りたい。

中村哲医師はその先駆になられた。

羽山弘一

昭和の民草

コロナ禍の終息もままならぬ今日、ロシアがウクライナ侵略を続け、イスライルがガザ地区へ無差別攻撃を激化させている今日。

日本は防衛と称して、軍事対軍事の準備を行っている事が、私には、とても、とても恐怖と悲しみを感じてしまう。それは太平洋戦争を体験しているからなのだろうか!!

空からの爆弾の投下、食糧難の恐怖、逃げ場の無い日々・・・・・・。８２年前の空襲犠牲者、被害者は今日においてもなお謝罪なし、補償なしの民草でしかありえないから感じてしまう事なのだろうか？

川島マス

平和がいいね

一度始めた戦争を終わらせるのは本当に大変な事だ。
昔の日本がそうだった!
最後に多くの犠牲者が出るまで終わらなかった。
だから戦争は始めてはいけない。

K．S

戦場から「無事に帰ってきて！」との兵士のご両親の悲痛な叫びがラジオから報じられた。

戦闘の中、多くの子どもたちが殺されてると新聞で知った。

私に何ができるのか？
「即時停戦」の声をあげるしかないのだろうか？

岩田和子

麻生氏の「覚悟」

8月8日訪台中の麻生副総裁の発言に驚いた。「防衛力を持っているだけではだめ、台湾海峡の安定のために使うという明確な意思を相手に伝えることが抑止力になる」「覚悟が求められている」「戦う覚悟だ」などと言った。日本を代表する政治家がなぜ戦争を煽るようなことを言うのか？もともと中国の国内問題にアメリカが口を出しているのではないか、そこへ日本が自ら巻き込まれるような発言をするのは理解できない。

早速翌日には、中国から「身の程知らずのでたらめな発言だ」と批判されている。出先で世界に向けて麻生氏の覚悟を述べる必要があるのだろうか。かって「ナチスの手口に学べ」と言ったことも思い出される。日本の何倍も軍事力を持っている国に対して、米国の手先となって最前線に立とうとは、何と愚かなのだろうか。抑止力を機能させるって誰が誰に何のためになのだろう。あなたが戦う覚悟を持っていようが、決して前線には出ないだろうし、日本国民は二度と戦争をしたくない。平和憲法を持っている日本はどの国とも争いを起こさないと誓っている。

麻生氏には、どんな困難な問題に対しても武力ではなく平和的に解決するという真っ当な「覚悟」を聞きたい。

山口美枝子

戦争は最大の環境破壊

軍事行動は莫大な燃料を浪費します。戦闘機は1時間飛ぶと、8000ℓの燃料を消費します。これは一般的な自動車の8年分で、戦車も艦船も大量の燃料を消費します。

ロシアのウクライナ侵略では、22年2月から23年1月までの12ヶ月で1億2000万トンのCO_2が排出されたと推測されています。

世界中の国がGDPの1％を気候危機防止に使えば、気候危機は止められると言われています。しかし多くの国でGDPの2%前後を軍需費に当て、環境対策費にそれほど当てていません。日本でも防衛省の予算は23年度6.8兆円、環境省の予算は7414億円で防衛省の約9分の1です。

アイスランドやコスタリカは軍隊がありません。軍需費を必要としない国では福祉や環境を重視した政策や予算がとれるのです。気候危機を止めるためにも「即時停戦を」の声を大きく！

（数値はは新婦人しんぶん2024.1.1日号より）

毎日報道される、戦場の恐怖で笑顔を忘れた子どもたちに心が痛みます。
大人たちが起こしたこの戦争が、一日でも早く終わりますように。 梅沢

12 月中旬に下記の茂木敏充議員への手紙を「足利・九条の会」も加わってだしました。手紙への返答を現在、待っているところです。

４３兆円は私たちの安心・安全な暮らしを守るために使って欲しいです。

衆議院議員・自由民主党　幹事長　　茂木敏充　様

令和５年１２月吉日

私たちは足利の市民です。最近の理解しがたい政治の状況に、日本のかじ取りをされておられる茂木先生にお尋ねしたいと思い筆を執りました。

科学など高度に発展した 21 世紀現在の今、ウクライナや中東では一般の人々が無造作に殺されています。人類は２０世紀の戦禍の時代に何を学んだのでしょうか？　それぞれ、歴史上の複雑な課題を抱え、解決に至らなかったとは言え戦争では解決できないことは現状からも明らかです。21 世紀の知恵の創出が必要になっていると考えます。

それは遠い国の出来事ではないと感ずるからです。

最近、日本は防衛費を増大し、５年間で４３兆円を閣議決定しました。憲法では「国際紛争に対処する手段として戦争は放棄」とした国が、なぜ４３兆円もの防衛費が必要なのでしょうか。なぜ軍備が必要なのでしょうか。もし、隣国の防衛費や軍備の増大で日本も軍備の拡大が必要との考えならば、第２次世界大戦で３２０万人以上の戦死者を出し、憲法で戦争を放棄した日本の先進性はどこにあるのでしょうか。日本はどこに向かっているのでしょうか。明るい未来は全く想像できません。軍備増大では北朝鮮や中国に恐怖を抱かせ、更なる軍備増大を招くことは避けられません。世界第３位の軍事大国となって、北朝鮮や中国を批判できるでしょうか。

日本では今、給食費を払えない小学生が増え、通学拒否児童も３０万人になろうとしています。憲法で謳われている義務教育に十分な支援がなされていない現状は政治が憲法を無視し本来の機能を見失っているとしか考えられません。

軍事大国の未来とはどんな未来なのですか。

戦争は地球と人類の生存を危うくする破壊と殺し合いです。憲法九条を持つ平和国家、日本の姿を世界に示していただきたいのです。自衛隊を人殺しの軍隊にしないでください。私たち国民を戦禍にさらさないでください。

今、政治への信頼はこの課題に真摯に向き合うことだと私たちは思います。増税に反対しているのではありません。何に使うための税金なのかに合点がいかないのです。

ご多忙とは存じますが、私たち足利市民は以上の疑念に返答を頂きたいと祈念する者です。

以上

申請者
NPO 法人「地域に開かれた里山ウエルネス」
足利・九条の会
足利　新婦人の会
足利　平和ネット

劇場版「荒野に希望の灯をともす」足利上映会　医師中村哲現地活動３５年の軌跡

日程:２０２４年２月９日 会場 :フラワーパークプラザ文化ホール 問合せ:大竹 080-3470-0301